

# A10

## 茨城県における女性の原子力エネルギーに対する認識の変化 ～WIN-Jの5年間のハート to ハートの交流会を通して～ 2) アンケート解析

Change on Women's Perception of Nuclear Energy in Ibaraki Prefecture  
～ Through 5 Years' Heart to Heart Dialogues as WIN-Japan Activities ～

WIN-Japan 橋内 久美 尾形 祐子 小川 順子  
Kumi KITSUINAI Yuko OGATA Junko OGAWA  
((独)日本原子力研究開発機構) (日本原子力発電㈱) (日本原子力発電㈱)

WIN - Japan 茨城は茨城県の女性を対象にハート to ハートの交流会を5年間実施してきた。この間の参加者の原子力に対する認識の変化についてとりまとめを行った。そのなかから、アンケートの解析結果について発表する。

**キーワード：** コミュニケーション，地域住民，地球環境問題，原子力エネルギー

### 1. はじめに

WIN-Japan (以下、WIN-J と略す。)では、ハート to ハートの人間的交流を通じた継続的な情報交換の場である女性交流会を実施してきた。本女性交流会は、原子力や放射線に無関心な層に対して「放射線や原子力について考える『最初的一步』」と位置づけ「興味を持つきっかけ」を作ること、また複数回参加している方には、将来の地域のオピニオンリーダーとなっただくことを目的として実施してきた。

### 2. 実施内容

アンケートの目的は各回ごとの企画の達成度について測定した。さらに、各回に共通する設問を設けて解答を比較した。また、企画によっては実施前と実施後にアンケートをとり、理解度や満足度について調査した。

### 3. 結果・考察

これまでの原子力企業の PA 活動は立地地域に限定して行われることが多く、隣接市町村の参加者からは情報量に差があるとの意見が多かった。このため、本交流会の参加者は東海村に限定せず実施し、東海村以外からの参加者は約60%であった。参加者の年齢層は、50代と60代で約7割を占め、交流会を平日に実施したこともあり、子育てがひと段落した専業主婦の参加が目立つ結果となった。また『交流会で発言ができましたか?』とのアンケートに対しては、平均して約85%の方が積極的に発言できたと回答している。これは少人数のグループに分かれたテーブルトークであったことに加え、参加者がWIN-J 茨城のメンバーよりも年齢が高いこともあり、自由に発言できる雰囲気につながったと思う。しかし約15%の方は、発言しにくかったと回答していた。これは、原子力や放射線について知識の少ない「初心者」の方と思われるため、WIN-J 茨城メンバーは、テーブルトークのファシリテータスキルを向上させていく必要があると思われる。

図-1は『原子力についての意識がテーブルトークの前後で変化があったか』という設問に対する回答の推移である。第3回までは、原子力に対する意識に「変化あり」または「少しあり」という回答が多い。これは、原子力初心者の方が、いつも心に秘めていた不安や、質問したら恥ずかしいと思っていたことをテーブルトークで理解できたことから起きた変化と思われる。また第5回目からは、原子力に対する気持ちの「変化なし」という回答も目立っており、参加者の原子力に対する理解度が増し、肯定的にとらえている結果と思われる。

一方、交流会に複数回参加している方であっても地域住民の初心者の方々に原子力に関する知識を誤って提供している場合があることも分かった。従って、今後も継続してハート to ハートの交流会を開催し、タイムリーに正確な情報と知識を伝えていく必要がある。

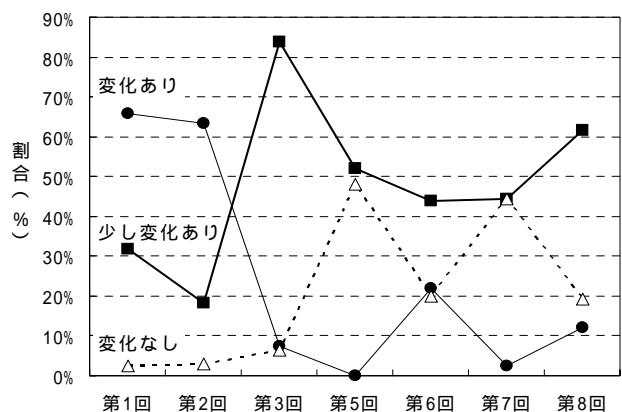


図-1 原子力に対する意識の変化